

家田病院では、IBDの治療に積極的に取り組んでいます

家田病院は胃腸科・肛門科の専門病院として、IBD患者様のQOL（生活の質）向上に貢献することを使命と考え、最新の治療に取り組んでいます。

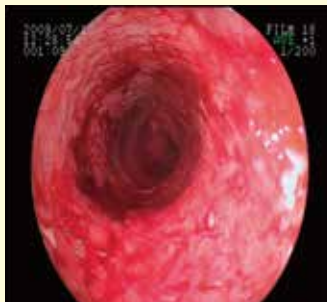
IBDとは炎症性腸疾患 (Inflammatory Bowel Disease) のことで、一般的には潰瘍性大腸炎とクローン病のことをさしており、厚生労働省より特定疾患の難病に指定されています。

▶ 潰瘍性大腸炎とは

大腸の粘膜に炎症が生じ、潰瘍やびらん（ただれた状態）ができ、下痢や粘血便がおこります。主な症状は、腹痛、下痢、血便、粘血便、発熱です。症状がほとんどない緩解期と、悪くなる活動期・再燃期を繰り返す慢性の病気です。



正常な大腸



潰瘍性大腸炎



クローン病

▶ クローン病とは

口から肛門までの消化管に、縦長あるいは不整形の深い潰瘍を作り、炎症をおこしたり消化管が狭くなったりする、慢性の病気です。主な症状は、腹痛、下痢、発熱、栄養不良、肛門病変（痔ろうや裂肛）があります。

気になる症状がありましたら、早めの受診をおすすめいたします。



医師 太田 章比古

IBDの診療は、適切な診断と早期に症状を改善することが重要だと考えます。そのために「チーム医療」を実践することで、患者様に応じた最善の治療選択を心がけています。

IBDチーム



看護師 大藤 千恵子

専属スタッフがIBD診療に携わり、患者様にあった適切な治療の提供やQOL向上を目指し、サポートに取り組んでいます。

薬剤師 杉浦 洋

IBD患者様が、薬剤について安心して治療に取り組んでいただけるよう、サポートしています。



患者様

栄養士 土屋 静香

私たち栄養士は主に、食事に関するアドバイスや、相談に乗っています。些細なことでも構いません。お気軽にお声がけください。